

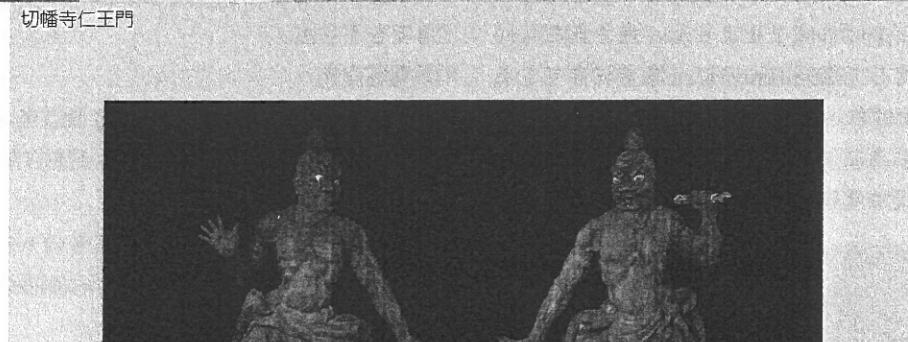
NPO JCP NEWS

No. 17 · 2008. 1.1

- ・切幡寺 金剛力士藏二軀 修理報告
- ・伏流水 日本における人材養成の現場から 吉備国際大学
- ・保存修復の現場から こだわりの道具紹介⑥——データロガー——
- ・書籍紹介『博物館が好きっ！』『ブルーシールド』
- ・JCP事務局通信



切幡寺仁王門



仁王像 左・吽形 右・阿形



切幡寺 木造金剛力士像二軀 修理報告



徳島県阿波市市場町切幡字觀音に所在する切幡寺は、得度山灌頂院と号する真言宗の名刹で、四国八十八ヶ所の第十番札所として知られています。

平成17年10月、当機構は、切幡寺仁王門の建て替え工事を請け負っている鴻池組から、この仁王門に安置されている阿形、吽形の木造金剛力士像二軀の保存修理を相談されました。

当機構では、評議員の田邊三郎助先生（武蔵野美術大学名誉教授）、登録会員の山崎隆之先生（愛知県立芸術大学名誉教授）に依頼して調査しましたところ、二軀とも損傷が進んでおり、工房において本格修理をしたほうが良いとの結論に達しました。

切幡寺では、平成10年から3年間かけて重要文化財の大塔の修理も行っており、仁王門の建て替え工事及び仁王像の修理・修復に当たられる予算については、余裕のあるものではなかったと思われます。それでも1年半後、あるいは2年後の彼岸に合わせ、仁王門の建て替えおよび仁王像の修理を完成し、落慶法要を執り行いたいというご住職の情熱に、こちらも何とかお答えしたいと思いました。鴻池組もその期日を睨んで工事を進めています。1年半の期日で二軀の仏像を修理しなければなりません。残された時間はぎりぎりでした。そして像高2.6mの仁王像を収容できる工房を持つ技術者でなければなりませんでした。

検討の結果、愛知県内に工房を構えている横川耕介氏が浮上しました。横川氏は愛知県立芸術大学美術学部彫刻専

攻を卒業して、1994年に工房を設立、大学の講師も勤めながら修復技術者として活躍しています。ご自身が設計された丘の上に立つ瀟洒な工房に、仁王像二軀は何とか搬入することができたのです。

施工者が決まった時点で、予算、工期の面ともご住職のご理解を頂いて、落慶法要は平成19年の秋、ということで合意ができ、漸く修復事業は動き出しました。

損傷状況：

戸外で風雨に曝される仏像の宿命として、材の風化、虫蝕、朽損が進み、後補と見られる彩色も、概ね剥落していました。また鎌や釘の鏽が材の深くまで届き、劣化させる要因となっていました。総体に近世と思われる後補部分が多く、造立時と仕様が変更されていると認められる部分については、当時の形状への復帰を図りました。

後補と思われる部位は以下の通りです。

阿形：

①右手首

桧材の後補。手首の方向が接合面の形状と合わず、また角度も不自然。

②両足首先

桧製の後補。両足踵底部の朽損に充てられた後補材の厚みが適切でないため、像の傾きが不自然であった。

③天衣

すべて後補であり、欠損するものも多く、その殆どが脱落し、どちらのものか分からぬ部品が多かった。

④宝髻

髪髻を束ねる元結は後補であり、像には合わなかった。

吽形：

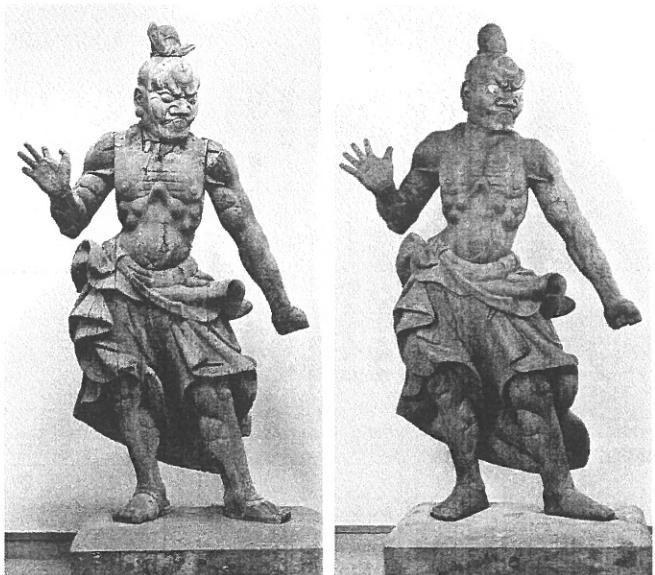
①右手

第1・3・4指のすべて。第2・3指の半ばから先。掌の一部

②～④ 阿形と同じ。

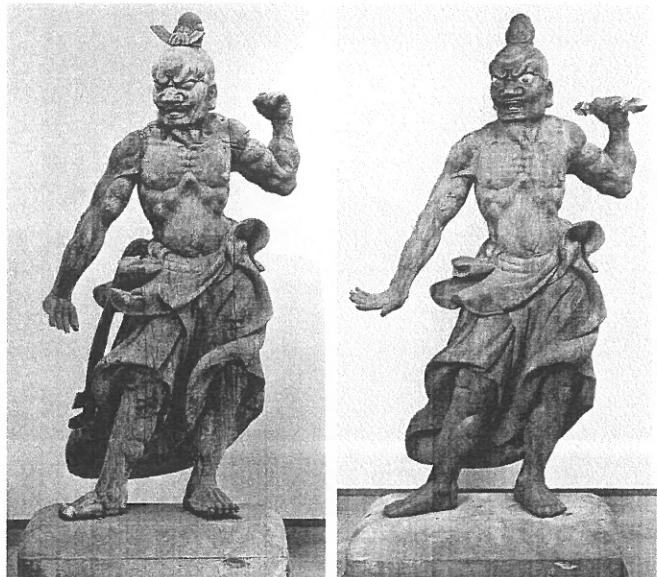


切幡寺仁王門



吽形 修理前

吽形 修理後



阿形 修理前

阿形 修理後

修理仕様：

- ・まず二躯ともすべて一旦解体。鋲を生じさせていた釘・鎌を除去。それぞれ矧目を調整して麦漆・鎌で接合。鎌は現状で使われていた大きさより一回り小さく、漆で防錆処理したものを使用しました。
- ・後補彩色はできる限り取り除き、付着していた苔は除去し、アルコールで消毒しました。
- ・後世の修理による接合部の削り直しで立姿が崩れ、また矧目がずれているところが多く、今回の修理で調整し、当初の位置に戻すように務めました。特に後世修理で虫蝕を大きく削られた足柄では、残る部分に数度に分けて重ねて合成樹脂を含浸させ、虫蝕部に人工木材（エポキシ樹脂）を注入し、周囲を桧材で包むように補強して、立脚に耐えられる強度の復帰を図りました。
- ・阿形の右手首先、両像の両足首先、踵底部を樟材で、左右の天衣垂下部を桧材で新補しました。
- ・この内、阿形の手首の方向は、接合部断面の形状に合わせたところ、現状と異なって掌が下に向くように接合されていたことが分かり、当初の姿に戻しました。
- ・後補の天衣については部品も足りず、また像に形状が合わないため別保存し、新たに桧材で作製し取り外しができるようにしました。
- ・宝髻については、後補材を形状・角度を整えて、既存の頭頂部枘穴を介して接合しました。後補の元結を束ねる紐は形状が尊像と合わないので、取り除いて別保存としました。
- ・特記すべきは眼球部です。通常は玉眼を嵌めるべきところ、阿形吽形共に当初から木眼が嵌められていきました。今回の修理では、玉眼をはめることと予定していたのですが、調査の結果、玉眼を入れた痕跡がないため、木眼の表面に少し手を加えることに留めました。

・尊像が立脚する岩座は清掃の後、枘穴を調整してそのまま使用。朽損していた框は桧材で新造し、拭き漆仕上げとしました。

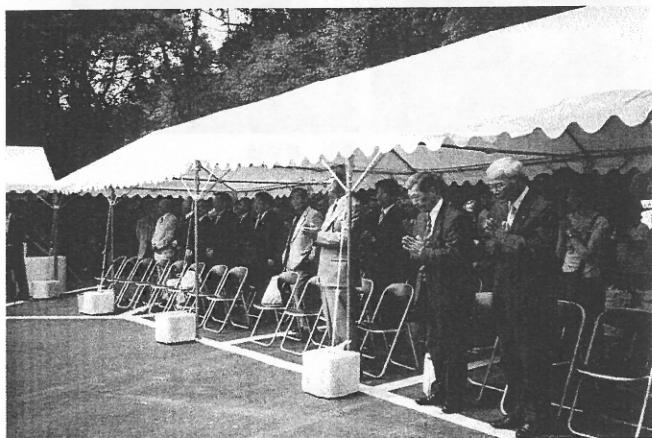
上記仕様に基づき作業は着々と進み、田邊先生、山崎先生の監修を経て、平成19年7月14日、無事納めました。9月1日（土）、落慶法要が執り行われることとなりました。当機構からは、修復を行った横川耕介氏と共に、理事長の代理として本部事務局の八木が参列することになりました。

9月1日の朝8時30分徳島空港に降り立つと、そのままバスでJR徳島駅へ向かい、30分に1本の徳島線へ乗車して鴨島駅で下車。切幡寺はさらに車で20分ほど北へ走った山あいにあります。10年かけて四国八十八ヶ所を巡拝したというタクシーの運転手さんとの会話を楽しむうちに、車は急な坂道を登り、切幡寺に到着。車を降りると木目も匂うように新しい仁王門が迎えてくれました。

切幡寺のご住職 大平正大師は、県庁に奉職されていたこともあり、文化財の設計仕様には強いこだわりをお持ちです。この仁王門の設計に関しても様々な検討があったそうですが、当機構理事で、もと（財）文化財建造物保存技術協会理事の伊原惠司先生の設計図を大いに気に入られ、採用されたとの事です。

法要は11時から現地にて厳かに執り行われ、場所を移して祝賀会が開催されました。祝賀会には徳島県議会議長を始め県会議員や阿波市長などの方々など、またご住職のご友人キダ・タロー氏などがみえられて、和やかな中にも盛り上がりを見せました。

思いがけないことではありましたが、当機構は鴻池組と共に、高野山真言宗管長名で、褒賞状を授与されました。これもひとえに監修者としてのみならず、様々な局面で調整役をしてくださった田邊三郎助先生、親身になってご指

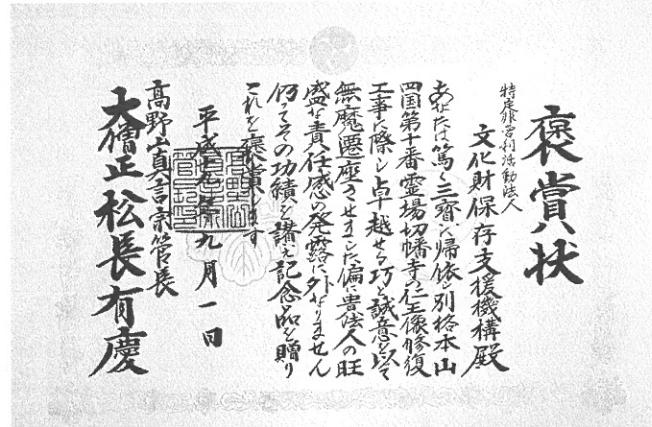


落慶法要の様子

導、ご助言下さった山崎隆之先生始め、愛知仏像修復工房の横川氏のお陰です。そして何より私たちを支えて下さっている会員がいてこそその褒賞状でした。ここに謹んでご報告いたしますと共に、心より感謝申し上げます。

また、切幡寺ご住職様のご理解と、工事関係者各位に、この場を借りて厚く御礼申し上げます。

当機構の事業には多様な形態があり、今回は鴻池組という建設会社を介したことでした。鴻池組には文化財施工を専門としている部署があり、社員の方々の文化財に対する知識や経験は非常に深いものがありました。だからこそ文化財としての仁王像に敬意を払い、相応な修理を施すため当方を介してくれたものであります。今回の事業では工期の面だけでなく、現場との調整など様々な課題がありました。コーディネートする機関として、どこまで現場



に立入るか……ということはいつも悩むところです。そんな時、鴻池組の方々の気配りにはいつも助けられ、大いに学ばせて頂きました。行政・企業・NPO……それぞれの特色を生かす中で、今後も様々な機関と連携していくならと思っています。

今回の事業を通じて、四国霊場を代表するお寺の玄関口にて巡拝者をお迎えする仁王像が、尊容を損なうことなく無事遷座できましたことは、何事にも代えがたい成果であったと思います。

皆様も四国に出かけられた折には、是非第十番札所切幡寺に足を延ばして下さいね。

(文責：八木)



褒章状授与

ちょっと寄り道

翌日、「うだつ」の町で有名な脇町に足を延ばしました。脇町は1988年12月、文化庁より、「重要伝統的建造物群保存地区」に選定されました。全国で28箇所目にあたります。

東西にのびる430mほどの道沿いが保存地区になっており、指定地区的面積は5.3ha。伝統的建造物は88棟。古くは宝永年間からある建物が現存しています。

お屋は保存家屋で経営している茶店で、そば米雑炊をいただきました。デザートにすだちジュースもついて800円！！とても美味でした。

保存地区から少し離れたところにある「オデオン座」は、明治期から続く芝居小屋でしたが、最近取り壊されそうになったところ、山田洋二監督の「虹をつかむ男」のロケ地となり、息を吹き返しました。現在では地元の劇団公演や歌舞伎の解説などが行われ、市民活動の場として大事に保存されています。公演がないときは、200円で内部を見学できます。



第Ⅱ弾

吉備国際大学

平成19年9月、岡山県高梁にある吉備国際大学を訪問しました。

倉敷の駅から車で走ること30分。折から晴天に恵まれ、濃い緑に覆われたなだらかな丘陵を背景に、白壁の土蔵や民家が点在する吉備路は、奈良京都とはまた一味違った歴史を感じさせる古都でした。

吉備国際大学文化財修復国際協力学科は、平成13年(2001年)、既存の社会学部の一学科として新設されました。しかし卒業時に取得される「社会学士」という肩書きが文化財を専攻するものにとって違和感があることなどから、平成16年組織改変が行われ、平成19年に新たに創設された文化財学部の下に組み込まれることになりました。同大学の文化財学部は、日本では初めての「文化財」を冠した学部となりました。

この組織改変では、従来の「分析」「文書・書籍」コースに加え、「東洋」「西洋」「情報」が加わり、文化財のほぼ全域をカバーできる体制となっています。

さらに大学院には文化財保存修復学研究科がおかれ、各コースでより実践的な修復を学んでいます。

今回は文化財学部学部長 大原秀之先生にお話を伺い、文化財修復国際協力学科教授 馬場秀雄先生に学内をご案内頂きました。

吉備国際大学の理念

問：貴大学の場合、大学名にも学科名にも「国際」という言葉が付けられています。これがキーワードとなって、他大学とは違う特色を感じさせます。また学生も「国際的」な何かを求めて入学してくるのではないかと想像しますが、どのようなところが「国際」なのでしょう？

大原先生：この大学の基本的理念として、国際貢献を目標としているということが挙げられます。以前は前任者のフィールドもあって、東南アジアに目が向けられていましたが、現在はアメリカやヨーロッパとも交流を深めています。具体的にはボストン美術館（アメリカ）の研究室や、ポーランド・トルーン市のコペルニクス大学と調印し、東洋修復室を中心に、教員と学生が行き来して交流を図っています。私立大学の一学部と、海外の名だたる美術館の研究室と調印を結ぶということは、画期的なことだと思いますか？特にコペルニクス大学では、修復も含めて日本の文



吉備路



吉備国際大学全貌

化をとても勉強しています。コペルニクス大学の東洋美術専門の先生がこちらに来て学び、こちらの西洋修復専攻の学生或いは教員があちらへ行って学ばせもらいます。来年は馬場教授にコペルニクス大学で装こう技術の実演をしてもらおうかと思っています。

問：どのような経緯で調印の運びになったのでしょうか？

大原先生：私は1975年から約15年間、ドイツデュッセルドルフ市立美術館の絵画修復研究所に就業していたのですが、仕事を切り上げ帰国しようとしていた直前に、同研究所に研修に来ていたコペルニクス大学修復学部の先生に招聘され、ポーランドに8ヶ月滞在しました。修復学部に毎日通って、教員や学生と一緒にポーランドにおける裏打ちの研究をしていました。その縁が20年後の今になって、こうした形で花を開いているのです。

ヨーロッパの修復家育成と日本の現状

問：日本の文化財教育の現場は、先生が体験されたヨーロッパと比較してどのように思われますか？また大学は出たけれど就職先がない、という日本の現状に対し、吉備国際大学はどのように対応されていますか？

大原先生：ポーランドの大学の文化財修復学部は、医学部

の次に入学することが難しいと言われています。資源の少ないポーランドにおいて、誇れるものは先人達の作った美術品です。その国民の宝の医者である修復家の地位は非常に高いのです。したがってとても厳しい入学試験と厳しい授業が課せられています。

またウィーンでは、難関を突破して入学する学生は1年に10名。それに対し教員数は20~25名もいます。1人の学生に対する国家予算は年間1000万円も注ぎ込んでいる計算になります。この大学入学に関しては、面白いシステムとなっています。入試資格を得るために、入試前に最低18ヶ月は無給でどこかの工房、あるいは研究室に就業することが必要です。そこをクリアして、1年6ヶ月どんなことをやってきたかプレゼンテーションする。これが第一次審査。そこで選抜された20名ぐらいに対し、語学試験、筆記試験が課されます。この第二次審査で篩いにかけられ、厳しい選考を勝ち抜いてようやく大学に入学することができるのです。ですからドイツ語圏なのに英語はみんなパフォーマンス。その難関を勝ち抜いてくるのは、90%~95%が女性ですね。年間10名の卒業生たちは、ヨーロッパの主要な美術館博物館に大手を振って就職できます。

それに比べて、やはり日本は後塵を拝していると思います。修復を教えるのはとてもコストがかかることなので、私立の大学ができるることは限界があると思います。大学院の学生にはある程度実践を教えますが、学部生が4年間勉強したからといって、その中で即戦力を身に付けさせることはできません。民間の努力だけで修復家としての就職を保証するのは困難です。ですから修復家そのものではなくとも、美術品に関連のある企業に就職し、大学で学んだことを活かしてくれたらと思います。例えば運送会社の美術品輸送部門で美術品取り扱い主任などという制度を設けてくれれば、文化財を学んだ人間の出番があるんすけれどね。

現在岡山県下の美術館博物館の数は、日本で北海道・東京に次いで3番目ですが、人口密度では岡山が最も多い、という説もあります。それなのに文化財のお医者さんがいない。需要はあるはずなので、10年後ぐらい先を見越して人材を育てて行きたいと思っています。

文化財総合研究センターについて

問：貴大学には文化財総合研究センターがありますが、どのような位置づけでしょうか？ 大学や大学院との連携は？

大原先生：本来学部とセンターは別個です。センターは、私立大学学術研究高度化推進事業－学術フロンティア推進事業として文部科学省から補助をいただき、平成16年にオープンしました。研究テーマを決め、5年計画で研究しなければなりません。テーマは「文化財の継承と新技術創出に関する科学解釈学的研究」という長いタイトルですが、実質的には分野ごとにテーマを作りて研究を進めています。文化財の研究がもっと現在に通用することがあるので

はないか？ という切り口で考えています。例えば下山進先生の、紅花の染料の研究を口紅に応用するなどが良い例です。

学部との連携で言うと、学部生が卒論で関わりたいという場合は、一緒に研究するという形を取ることもあります。文部科学省の補助金はあくまで研究目的であって、教育目的ではありません。その代わり我々は研究室をあえてガラス張りにして、廊下から中が見えるようにしています。大勢で中に入つても困るので、外から見てももらえるような設計になっているわけです。学部生は羨ましそうに見えていますよ。熱心な学生なら招き入れることもあります。

学部としては1学年の定員が40名ですが、院は全コース含めて6名です。ですから授業自体マンツーマンです。東洋修復室・西洋修復室・分析室は、ドアを開ければ隣へ行ける。バリアフリーですからお互いに材料などの情報交換ができるようになっています。このメリットは、専門外の知識も身に付けることが可能だということです。海外の機関が日本人を研修生として採用する場合、東洋人としての知識を期待しています。西洋修復を専攻してきた人間でも、背中に日本文化を背負うことになるわけですが、そんな時に東洋修復室との交流で得た知識が大いに役に立つはずです。

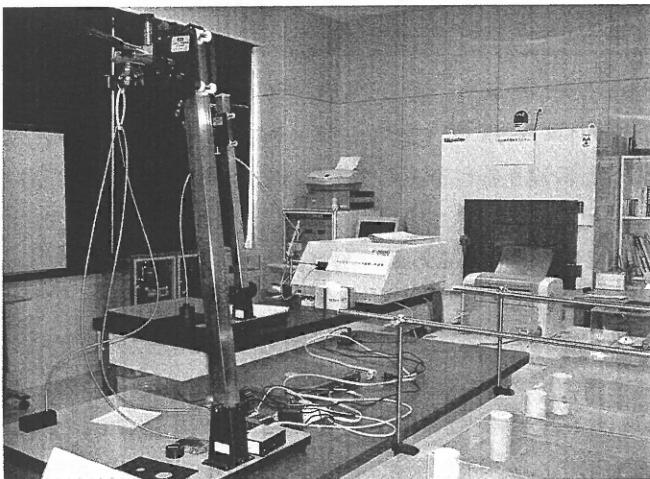
学内紹介

バリアフリーといわれるセンターの部屋を見せていただきました。

○分析室

同大学の特徴として、保存科学科を設けていないことが挙げられます。そのかわり東洋／西洋修復いずれの学生でも、自分のテーマで必要であれば機器を使用することができます。

歴史的美術史的視点を持った学生が科学的視点も持てる機器も扱える、そんな人材の養成を目指しているそうです。



分析室

○東洋修復室

院生が作品を修復していました。一人は美術館に学芸員として勤めながら大学院に通っている女性。もう一人は、もと高校教師だったという男性です。



東洋修復室 古物倉庫



東洋修復室

二人にインタビューをさせていただきました。

問：学芸員をなさりながら、なぜ修復を学ぼうと思ったのですか？

学生（女性）：作品に関して、今まで文献で調べるということはしてきたものの、実際触ってみるということはなかった。学芸的な見方とはまた違った見方ができるのではないか？ と思ったのです。

問：実際に修復で作品に触れてみていかがですか？

学生：もっと作品のことを見なければ、ということを学んでいる気がします。ボストン美術館で研修してみて、修復士と学芸員はひとつの作品のことを一緒に考え、情報を出し合って、どのように修復していくのかについては連携していくかなければならない、と思うようになりました。そこが日本ではまだ足りないのでないかと思います。

問：もと高校の美術の先生をされていたそうですが、なぜ修復を学ぼうと思ったのですか？

学生（男性）：東北芸術工科大学で日本画を学んでいたのですが、その大学に文化財の修復専攻コースがあって、友人が学んでいるのを見て興味を持ったのがきっかけです。実際に勉強してみると難しいですが、美術作品に触れるだけでも楽しいです。ただ他人の作品に触れるということは、いくら可逆性のある修復をするからといって、元にはもどらない怖さはあります。修復には工程がたくさんあるので、それを大学の課程で学ぶのは難しいとつくづく思います。教師にはもどるつもりはないので、卒業後はどうしようか

と思っていますが、それでも作品に触れるような仕事につきたいです。

○西洋修復室

こちらにも院生が二人、白衣を来て油彩画の修復をしていました。

二人とも他大学で洋画を専攻した後、こちらの大学院で学んでいるとのこと。

就職は心配じゃないですか？ といいういじわるな問い合わせ、「先生が明るいので楽しいです。」と、届託のない様子。

そんな学生さんに「少し修行をしてから独立すればいいんだよ。」と大原先生がはっぱをかけます。

同大学院では、ことし3月に初めて3人が卒業したばかりだそうですが、大原先生の工房でアルバイトをさせたり、クリエイティブとして鍛えたり、と何くれとなく面倒をみていらっしゃること。

実は大原先生は、日本における数少ないクリエイティブのおひとりなのです。海外の美術館からの指名で、日本で開催される海外展の日本側の保存総責任者として活躍されています。明るいお人柄と共に、そんな活躍ぶりも、学生をこの世界に惹きつける魅力になっているのかもしれません。



西洋修復室

最後に

大学の魅力とは、つまりは教授陣の魅力なのでしょう。今回あまりお話を伺えませんでしたが、書籍修復のマイスター 鈴木英治先生や、浮世絵の顔料分析で有名な下山進先生など、錚々たる先生が情熱を持って指導に当たられています。馬場先生は、地域の未指定文化財を救っていきたいという夢があるそうです。当機構もそんな夢から出発していますが、いろいろな壁にぶつかっています。是非大学という組織と、若い力をもって、文化財を護り継承する新たな道を開いていただきたいと思います。

最後になりましたが、お忙しいところ快く取材に応じてくださいました、大原秀之先生、馬場秀雄先生、鈴木英治先生、関係各位に心から御礼申し上げます。 (八木)

こだわりの道具紹介⑥——データロガー——

文化財を保存するにあたっての第1歩は、保管場所の環境の整備です。

その温湿度を測定するデータロガー。でも、一体どれを使ったらよいのでしょうか？ 値段もピンからキリまで。機能もそれぞれ違います。

温湿度を測れるだけで良いのか、それともコンピューターにデータを送信して環境分析したいのか……。

今回は、会員で保存材料販売を行っている(株)パレットの長谷川雅啓さんに、代表的なデータロガーを紹介して頂きました。

ご参考までに値段の目安も付いています。

ご自分の目的にかなったデータロガーを探してみてください。

商品名	おんどとり・無線通信タイプ	スペクトラム2000 温度・湿度データロガー	ホボLCD温度・湿度ロガー	デジタル温湿度計
商品写真				
品番	RTR-72	SP-2000-20R	H14-001	PC-5000TRH2 (1050-00)
チャンネル数	温度 1 ch 湿度 1 ch	1 ch 1 ch	1 ch 1 ch	- -
測定範囲	温度 0°C～+50°C 湿度 10%～95% RH	-40°C～+85°C 0%～100% RH	-20°C～+50°C 15%～95% RH (+25°Cにて)	-5°C～+50°C 25%～95% RH
精度	温度 平均±0.3°C 湿度 ±5% RH (+25°C 50%RHにて)	70.15°C (+25°Cにて) 70.5°C (-30°C～+50°Cにて) ±2% (+25°C RH 10%～90%にて)	±0.7°C (+20°Cにて) ±0.3% (20%～80%にて)	±1°C (0°C～+40°Cにて) ±5% RH (+15°C～+40°C 40%～80% RHにて) 上記以外は±7%RH
分解能	温度 0.1°C 湿度 1% RH	0.05°C (+25°Cにて) 0.2°C (-30～+50°Cにて) ±0.05% RH	0.4°C (+25°Cにて) -	- -
動作環境	温度 温度：0～+50°C 湿度 湿度：90% RH以下	-40°C～+85°C 0%～100% RH	-20°C～+50°C 15%～95% RH	-5°C～+50°C 湿度85% RH以下
記録間隔	1・2・5・10・15・20・30・60分 合計8通りから選択	10秒から10秒単位1日まで (予約設定可)	最短1秒より最長9時間	10秒毎
記録容量	1440データ×2ch	ノンボラタイル 32Kx8EEROM 21,500	65,170サンプル (温・湿合計) 不揮発性EEPROM	-
記録モード	エンドレスモード (記憶容量がいっぱいになると、先頭のデータに上書きして記録する)	FULL状態で上書き・FULL 状態でストップ記録保持： 電源なしで約20年	データ満載時モード (終了/連続記録)	-
電源	リチウム電池 (CR123A) 1本または専用ACアダプター/外部電源ユニット	リチウム電池 (3.6V) 内蔵	AAAアルカリバッテリー×3	単四形乾電池 (R03) ×1
電池寿命	約3ヶ月	約10年 (1分間隔サンプリングの場合)	通常使用時で約1年	通常使用時で約1年
PC接続方法	シリアル通信：RS-232C	シリアル通信：RS-232C 赤外線	シリアル通信：RS-232C	-
本体寸法	H:92×W:66×D:35 (mm) (アンテナ・突起部除く)	H:71×W:53×D:18 (mm)	H:125×W:30×D:31 (mm)	H:107×W:98×D:20 (mm)
重量	約120g (リチウム電池1本含む)	約60g	約170g	約145g
付属センサー・ケーブル	TR-3220温湿度センサー	温度：高精度校正 NTCサーミスター 湿度：CMOSIC プロイマーセンサー	温度センサー内蔵 湿度センサー：交換可能	感温部材質： ポリカーボネイト
別売りオプション	温湿度センサー、 ACアダプター、 外部電源ユニット、 解析ソフトウェア	Spectrum Software、 PDA (小型情報端末機)、 赤外線モジュール、 ケーブル	ソフトウェア：BoxCar Pro4.3 リモートアラームユニット・型番ARA 温度プローブ (2mケーブル)、ステンレス製針型プローブ (2mケーブル)、温 度・温度2chセンサー (2mケーブル)、 交換温湿度センサー	-

商品名		おんどとり・無線通信タイプ	スペクトラム2000 温度・湿度データロガー	ホボLCD温度・湿度ロガー	デジタル温湿度計
参考価格（税込み） ※データや価格等は、 2007年10月当時の情報 です。現在とは、違つ ている可能性があります。	本体	44,940円	66,150円	36,000円	5,775円
	センサー	10,290円	-	交換湿度センサー：5,400円	送料一式：10,50円
	OP1	ACアダプター： 2,625円	赤外線通信モジュール： 36,750円	ソフト・BoxCar Pro4.3： 18,000円	-
	OP2	電源ユニット： 7,825円	データ管理・収集用PDA： 42,000円	リモートアラームユニッ ト：16,000円	-
	OP3	解析ソフトRTR-70： 20,790円	解析ソフトPLM-SGO： 5,775円	温度プローブ： 9,000円	-
	OP4	送料一式： 1,575円	PC接続用ケーブル INT- USB-DL：15,750円	ステンレス製針型プロー ブ：17,000円	-
	OP5	-	送料一式： 1,575円	湿度・温度2chセンサー： 25,000円	-
製造元		株式会社ティアンドディ	ベリテック社	オンセット社	株式会社佐藤計量器製作所
国		日本	米国	米国	日本

明けましておめでとうございます。
本年もよろしくお願ひいたします。

PARET
Preservation And Restoration Tool

文化財の保存修復用品の製造と販売

And パレット
株式会社 **Restoration**
Tool

絵画修復材料
中性接着剤
紙製本修復材料
サクションテーブル
大型修復機材
中性保存用紙
チョウザメ膠
各種膠(にかわ)
アラビアガム

取り扱い海外メーカー
Lascaux deffner & Johanns University products willard Lineco pel GOLDEN ARTIST COLORS LIGHT IMPRESSIONS

文化財・美術品の修復に関する情報源・ナレッジバンクとして、お手伝い致します。
国内外の保存・修復関連用品を多数取り扱っております。入手が難しいものでも、是非ご相談ください！資料やサンプルを送付致します、お気軽にお問い合わせ下さい。

皆様からのお問い合わせを、心よりお待ちしております。

〒120-0046 東京都足立区小台1-18-8-709 TEL:03-3870-7027
Mail:toiawase@paret.jp FAX:03-5284-3710 Web:<http://www.paret.jp>

東洋絵画、書籍等の装潢、保存、修復用材料専門

木灰宇陀・美栖・美濃・楮紙・補材和紙・養生紙等
表装裂地、収納桐箱、軸首等

有限会社 **根本**

〒179-0073 東京都練馬区田柄2-6-17

T E L 03-3930-7052
F A X 03-3930-7053

『ブルーシールド

危機に瀕する文化遺産の保護のために』

コリン・コッホ 編集・翻訳

国立国会図書館 日本語訳
社団法人 日本国書館協会 発行

2007年6月30日

非売品

103ページ A5判
有償販売も行っています。

日本図書館協会URL

<http://www.jla.or.jp/publish/bindex.html>



表題、「ブルーシールド」の名称が何を意味する言葉であるかを知る人は多くはないのではないだろうか。

「ブルーシールド」とは、ユネスコの「武力紛争の際の文化財の保護に関する条約」(ハーグ条約)が定める文化財保護のための標章である。本書の表紙に描かれた青と白の盾形のものがそれだ。同じユネスコの文化財関連の条約である「世界遺産条約」に比べ、「ブルーシールド」もハーグ条約も日本ではあまり馴染みがないかもしれない。ハーグ条約は武力紛争時に文化財を軍事目的で利用することや軍事目標とすることを禁じるとともに、尊重すべき対象を明示し、その保護を確保するために文化財に附される標章「ブルーシールド」を定めている。医療施設や衛生兵が赤十字や赤新月を掲げることで保護を保証されるのと同様であり、「ブルーシールド」は「文化財赤十字」とも称される。

そして赤十字のように、武力紛争や自然災害などあらゆる危機に対して文化財の保護に取り組む国際組織としてブルーシールド国際委員会(ICBS)がある。ICBSは「ブルーシールド」をシンボルに掲げ、軍隊や消防も含めたさまざまな関連機関や専門家のネットワークを平時に構築しておくことで、緊急時に的確かつ迅速に対応することを目指している。

武力紛争や災害時に何よりも優先すべきは人命救助であるが、人間の生命だけを護るので不十分であり、同時に人間としての権利も護る必要がある。ハーグ条約も「ブルーシールド」も、地域や民族の歴史、文化、信仰等の象徴である文化財を人権の一部として認め、保護していくための枠組みなのである。

本書は、ICBSの構成機関のひとつである国際図書館連盟(IFLA)が「ブルーシールド」を周知するために2002年の年次大会で行った公開セッションでの報告を収めるものである。IFLAの資料保存コア活動が2003年に刊行した冊子の翻訳であるが、ハーグ条約と2つの議定書の条文の解説、ICBSの活動内容や理念、緊急時対応のガイドライン、洪水により危機にさらされたフィレンツェ国立図書館の経験、情報源である図書館の緊急時の役割が簡潔にまとめられている。条約と議定書の日本語訳も参考資料として附属している。

日本は2007年、条約採択から50年以上を経てハーグ条約に加盟した。今後は、条約の履行とともに、ICBSの地域組織であるブルーシールド国内委員会の設立も国内外からより強く求められるようになるだろう。そうした中で、煩雑な条約文や馴染みのないブルーシールドを日本語で解説する本書は、日本が条約の枠組みに参加し、国際協力による文化財保護を推進していく上で重要な情報を提供するものとなるはずである。

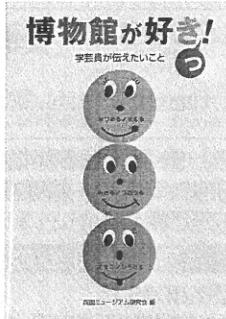
また、日本では阪神大震災を機に文化財の危機管理への注目

が高まり、多様な取組みが行われている。しかし、分野をこえた協力体制の構築は文化財専門家の間においても、文化財専門家と消防、自衛隊、自治体といったその他機関との間においても発展の途上にある。特に、ハーグ条約は軍隊に文化財保護教育を行うことや文化財保護専門官をおくことを国家義務としているため、自衛隊への意識啓発は不可欠だろう。また、人命救助やインフラ整備が最優先課題となる災害時に、外部の専門家が唐突に文化財の保護・救出活動を行えば被災者からの反発を招きうる。しかし、「ブルーシールド」の活動が認知されていれば、また自治体が公式に応援要請を行えば、理解も比較的得られやすいかもしれない。本書が広く読まれることで「ブルーシールド」の知名度が上がること、さらには、関連する各機関の間に協力体制が構築され、問題意識が共有されることを期待したい。

(藤岡麻理子)

『博物館が好きっ！』

—学芸員が伝えたいこと—』



四国ミュージアム研究会編

株式会社 教育出版センター

2007年2月28日発行

定価 1,600円+税

246ページ A5判

博物館や美術館や動物園、文書館など、広い意味での「博物館」で仕事をしている学芸員やその経験者が、「博物館が好きっ！」というありのままの気持ちを込めた一冊である。

本書を作成した四国ミュージアム研究会は、四国においてミュージアム関係者（利用者も含める）が広く結集・議論する場が望まれ、2005年に発足した。その前身には1996年からの「四国地区歴史系学芸員アーキビスト交流集会」があり、集会のテーマが次第にミュージアム全般に関するものが主となり、「歴史系」という限定を超えて、新たに「四国ミュージアム研究会」が設立されることになった。

本書では、『ミュージアムの活動は一般に「資料の収集保存」「調査研究」「展示」「教育普及」の4領域にまとめられる。』とある。一方で、博物館法において一般に学芸員の職務は、「研究・調査」「収集・展示普及」「保存・管理」の3類型とされている。（筆者も大学の博物館学の講義でそのように学んだ。）「収集・展示普及」の職務が、現場では「展示」「教育普及」と、それぞれ単独領域で扱われ、重要視されるということであろう。また、本書は第1部「あつめる／まもる」、第2部「みせる／つたえる」、第3部「むすぶ／ひろげる」というテーマで構成されている。本書の目的が学芸員の思いを伝えるという性格のものであるため、「展示」や「普及」の話題が主となっている。中でも学校教育との連携に力が入れられているようだ。2002年の学習指導要領の改正により「総合学習の時間」が設置され、ミュージアムもその教育力を開発するチャンスが多くなり、求められてきた。

なお、本書の第1部には当機構が香川県観音寺市郷土資料館に於いて行った高潮被災古文書救済活動の記事が掲載されている。文化財ボランティアという、文化財を通した人と人のつながりと、実際の仕事の様子が綴られている。

四国のミュージアムで働く学芸員から寄せられた40のエッセーに、共感しながら読んで頂きたい。

(千葉麻由子)

JCP事務局通信

パンフレット製作基金にご寄付をありがとうございます。
た。お陰様で、総額120,000円のご寄附を頂きました。

現在、東京藝術大学デザイン科の学生さんにレイアウト
デザインをお願いしています。

完成まで、もう少々お待ちくださいませ。

ご寄附いただいた方

油絵保存修復 たけのした工房 竹ノ下 磨須子 様

株式会社 宇佐美修得堂 様

株式会社 光影堂 様

伝世舎 様

株式会社 パレット 長谷川 雅啓 様

株式会社 明治クリックス 吉川 博幸 様

株式会社 文化財ユニオン 千葉 博之 様

芦田 彩 様
安藤 智之 様
尾立 和則 様
君嶋 隆之 様
倉田 治彦 様
坂本 久彌子 様
塚尾 富子 様
難波田 英子 様
畠野 経夫 様
奈良 真一 様
西浦 忠輝 様
他 個人 9名
(アイウエオ順)

■アンケート調査結果報告

平成19年9月に、当機構の会員活用状況についてご意見を伺うため、登録会員の皆様へアンケート調査を実施いたしました。回答率は低かったのですが、回答してくださった会員の声は、大変貴重なものでした。スタッフ一同参考とさせて頂き、今後の指針とさせて頂きます。詳細は、メールマガジンあるいはホームページなどでご報告させて頂ますが、今回は頂いた回答の中から、代表的なものについてご紹介させて頂きます。

アンケート趣旨：文化財保存支援機構の会員は現在約320件。その内、約170名が何らかの専門性を持った「登録会員」です。この法人のミッションは文化財の保存と継承に寄与していくことですが、そのために力を貸してくれるのが主として登録会員です。しかし設立から7年を経過した今でも、入会はしたものの、どのように関わったらよいのか分からず、活動に参加する専門家の選定基準はどこにあるのか、という声がよく聞かれます。また、運営側でも、会員の皆様がどのようなことを期待して入会してくださり、この団体の中で何をしたいと思っているのか、あるいはどういう条件が整えば関与して下さるのか、が見えずに声を掛けづらくなっている状況があります。

この状況を改善し、今後の指針とするためアンケートを行い、また合わせて具体的なご提案をお願いいたしました。
会員の声：

「声を掛けてもなかなか実現しない場合が多々あります」とあります。その通りと思えますが、これまで登録会員の何%ほどの方が声をかけられたのでしょうか？ 全くかけられてない方や複数回かけられた方がいらっしゃるのではないかでしょうか？ 実際が伝わりませんのでもしそうなら

ですが、なぜそうなのかがわかりません。以前広報で会員の方がこういうJCPの活動をして大変有意義な経験をしましたとありましたが、その会員はどのように選出されたのでしょうか。“参加資格を明確にしてほしい”と考えます。

しかし、“参加資格”といつても簡単ではないことはよくわかります。とくに本機構では社会的にopenになるわけですから本当に難しいと思います。でもこれだけの人材が集まる機構ですのでしそれが発信できれば、文化財保存の場で守るべき基準として一つの提示となるのではないですか。それは各地の現場でまた一般の方々が参考にすべきものとなるでしょうし、本機構を特徴づける要素となると考えます。私のお願いしている“参加資格”とはそういう性質のものです。

本アンケート冒頭文に“この団体の中で何をしたいと思っているのか”とありました。会員個々のそうした思いも引き上げてくれる機会であってほしいと思います。

またこうした会員からの意見要望等々を集める、投稿できる場が常にあってほしいと思います。

コメント：参加資格の問題は、設立当初から課題となっていました、専門評価委員の設置など様々な試行錯誤をしております。しかし皆様の納得いくものが構築されていないこともまた事実です。今後も皆様のお声を聞きながら、明確な基準作りを目指して行きたいと思います。

会員の意見・要望等を投稿できる場は、HPの活用など、早速検討させて頂きます。

このニュースレターでも、ご意見などの投稿をお待ちしております。

ご入会ありがとうございました。

(平成20年1月1日現在入会者数)

理事	8名	維持会員	10名
登録会員	169名	一般会員	97名
学生会員	5名		
監事	1名		
専門評価委員	1名		
評議員	1名		
賛助会員	29件		
株式会社 宇佐美松鶴堂			
株式会社 岡墨光堂			
桂文化財修理工房			
財団法人 元興寺文化財研究所			
京都造形芸術大学 歴史遺産研究センター			
株式会社 京都科学			
共同精版印刷株式会社			
共和コンクリート工業株式会社			
有限会社 黒田工房			
国富株式会社 長崎営業所			
株式会社 芸匠			
株式会社 光影堂			
有限責任中間法人 国宝修理装こう師連盟			
有限会社 坂田墨珠堂			
株式会社 修美			
宗教法人 正法院			
日本通運株式会社 美術品事業部			
株式会社 半田九清堂			
長谷川 聰			
百元 節			
株式会社 フレンドトラベル			
有限会社 文化財修復技術研究所			
株式会社 文化財保存			
溝川商店			
山領絵画修复工房			
他 個人4名			
(アイウエオ順 敬称略)			

NPO JCPの活動に 参加してみませんか？

■登録会員：年会費 7,000円
文化財保存に関わる専門的技能を持ち、プロジェクト遂行に協力する個人。

登録会員は文化財の保存事業を行うための専門家で、文化財に直接関わる専門家とは限りません。

■一般会員：年会費 5,000円
この法人の目的に賛同し、支援する個人。

■賛助会員：年会費 一口50,000円
この法人の目的に賛同し、支援する団体、個人。

■学生会員：年会費 3,000円
大学または大学院に相当もしくは準じる教育機関の学籍を持ち、この法人の目的に賛同して入会する個人。
会員特典
・季刊情報誌の送付
・講演会/研修会等への優先参加

※入会ご希望の方は、下記のファックス、お電話、メールにて申し込み用紙をご請求下さい。おり返し資料をお送りいたします。また、ホームページからでも入会申し込みができます。

TEL. 03-6770-1682 FAX. 03-6770-1683

E-mail : jimukyoku@jcpnpo.org

URL : www.jcpnpo.org

※この他にも、隨時寄附を受け付けております。下記の郵便振替、あるいは銀行口座をご利用ください。

・郵便振替 00120-4-10545 NPO JCP

・三菱東京UFJ銀行 四谷三丁目支店

普通預金 3960340

特定非営利活動法人 文化財保存支援機構

理事 三輪嘉六

・みずほ銀行 根津支店

普通預金 1727893

特定非営利活動法人 文化財保存支援機構

NPO JCP NEWS

第17号

2008年1月1日発行

特定非営利活動法人 文化財保存支援機構

〒110-0008

台東区池之端4-14-8 ビューハイツ池之端103号

TEL : 03-6770-1682 FAX : 03-6770-1683

E-mail: jimukyoku@jcpnpo.org

URL: www.jcpnpo.org

〈理事〉

三輪 嘉六（理事長）

大林 賢太郎（副理事長） 西浦 忠輝（副理事長）

伊原 恵司 白井 久明 増澤 文武

荒木 伸介 澤田 正昭

〈本部事務局〉

八木 三香（事務局長） 松本 洋子 千葉 麻由子

〈関西支部事務局〉

山岡 寛（事務局長） 加藤 亜沙子

〈編集協力〉

鷗根 隆一（伝世舎）